

## 全国の忠臣蔵ファンの皆様へ

大石内蔵助ら 17 名の赤穂義士が切腹した旧細川邸（聖地）を、一般に開放すべきと主張して、議員を動かし、港区や東京都に運動している輩がいます。

この大石ら切腹の地は、昭和 35 年に中央義士会が東京都教育委員会の許可を得て、全額中央義士会が出資して作り上げた聖地です。

皆さん、忠臣蔵（元禄事件）は悲劇です。親を捨て、子を捨て、自らの切腹を覚悟して、仇を討った義士たち。彼等の魂を安んじるために作った聖地を土足で踏みじろうとしている輩が、地元港区にいるのです。

それこそ、「獅子身中の虫」です。どうか、港区の関係者の方々正道を歩んでください。聖地の開放の目論見は非道です。開放主張の方々は、彼等勇士の切腹の地を一度でも掃除をしたことがありますか。我々義士会は 110 年、年 2 回続けています。それだけでも開放主張の野望は義士の魂がゆるしません。

中島康夫



発行人  
〒104-0052  
東京都中央区月島3-15-9  
全義連事務局  
TEL 048-973-3777  
編集者 中島康夫

ホームページ  
**忠臣蔵会館**  
出版・校正・協力  
テレビ制作協力  
講演・史跡案内  
<http://www.chuushingura.net/>

**年譜忠臣蔵**  
江戸時代初期から現代にかけて、忠臣蔵に関する全ての出来事を一冊にまとめた本です  
中央義士会 編著  
定価 1,500円  
送料 300円  
購入の方は郵便局から  
中央義士会  
00250-9-139100  
にお振り込み下さい  
(振込をもって申し込みとなります)

## 忠臣蔵の珍説がなぜ世にはびこるのか

常務理事 荻原 栄

昔の否定された説が何回も時間を置いて出てきたり、突拍子もない説が出てきたりするのはいかなものか、と考えていたところ、これは忠臣蔵に限らないことがわかった。

平成 30 年 10 月 23 日朝日新聞の「歴史家雑記」という欄で、歴史学者の呉座勇一氏が嘆いていた。その一部を抜粋して紹介する。

「奇説珍説が世間に浸透する最大の原因は、テレビの歴史バラエティー番組がそれらを面白がって紹介することにある。

制作者は、意見が分かれているのだから、様々な説を紹介するのは良いことだ、と思っているのかもしれない。だが実際には「見解の相違」など存在しない。歴史学界の共通認識となっている「通説」と、小説家や在野の歴史研究家の単なる思いつきを、あたかも対等な学説のように扱うのは、かえって不公平である。マスコミは悪しき平等主義から脱却すべきではないか。

まさにその通りである。小説家などの思いつきや、一部の歴史家といっている人の珍説が、マスコミによって広まっていく。多くの研究者が史料を精査し、共通の認識に立った「通説」を単なる思いつきや、身びいきだけで「別説」として出し、それを「新説」かのようにマスコミが取り上げる。忠臣蔵の世界だけかと思っていたら日本中世史でもあるとのことである。マスコミが取り上げると、視聴率が悪くとも、何百万の人びとが見ている。その影響力は大である。これを否定するのにかなりの努力と時間を掛けねばならない。恐らく、中世史にあるとすると、古代史など史料が少ない時代のものはとんでもなくあるのではないか。

しかし、この文の中で、少し気になるところがある。

「在野の歴史研究家の単なる思いつき」というところである。

多分これは、「在野の聞きかじりだけでほとんど勉強していない方、の思いつき」という意味だと思うが、この文だけでは「大学や研究機関で研究している学者ではない、在野の人」という意味に捉えてしまう人もいるであろう。

元禄事件に限って言えば、大学や研究機関での研究者で、研究者といえる方は、渡辺世祐博士だけである。この方は、昭和の初めから二十年代まで活躍された、元禄赤穂事件研究の権威で、東京大学の史料編纂所の教授で、かつ当会の会長もされていた。その方以外に、これまでも学者で優れた研究者は出ていない。すぐれた研究をしているのは、呉座氏がいうところの在野の方のみである。かつて、大学教授で歴史学者として高名な方も、刃傷事件は松之廊下ではなく、柳の間の廊下であると主張されたことがある。歴史学界の共通認識である、松之廊下を否定したのである。大勢の研究者がこれを批判し、正常に戻ったとおもったら、また小説家が「新説」のような顔をして本にしている。

元禄赤穂事件においては、明治のころからこれまで、在野の研究家が史実の発掘と発展を牽引してきた。福本日南、内海定次郎、平尾孤城、佐佐木杜太郎、斉藤茂などの方々である。福本日南、佐佐木杜太郎、斉藤茂は当会の人間で、内海定次郎と平尾孤城は赤穂の人である。

元禄事件に限って言えば、在野の方々が研究を発展させてきたのである。

「珍説」は目新しく、奇抜なだけに、元禄事件の史実を知らないの方々にとっては面白いので広がってしまう。吉良名君説などはその代表例といっていいただろう。

それに対応するにはどうしたらよいか。当会としては、しゅくしゅくとして史料に基づいた元禄事件を紹介する本を出版し会報で発表していくしかない。毎年、中島理事長が最新の研究結果を踏まえた本を出版しているが、マスコミが取り上げてくれないので、世間あまり広がらない。まじめな本は売れないので出版社は手を出さない。しかも、活字離れで出版社が次々と倒産しているので、益々悪循環に陥っていくのである。良い方法があったら中央義士会まで連絡請う。

## 徳島新聞記事から

(平成 30 年 1 月 1 日付)

「忠臣蔵」で知られる赤穂藩家老、大石内蔵助が赤穂事件のあだ討ちを決意した心情をつづった、徳島藩の親戚宛ての手紙が現存していることが、徳島市の徳島城博物館の調査で分かった。吉良上野介邸への討ち入り前日に書いたもので、遺書に当たる。60年以上前に公開されていた記録があるが、その後は所在がわからなくなっていた。

大石内蔵助は徳島藩祖、蜂須賀家政の外孫の孫。手紙は縦が約 17 センチ、横 75 センチ、1702 (元禄 15) 年 12 月 13 日付で、宛名は母のいところで家政のひ孫に当たる三尾豁悟 (徳島藩家老池田由英の子) となっており、永遠の別れを告げる「いとま乞い状」とされる。

(中略)

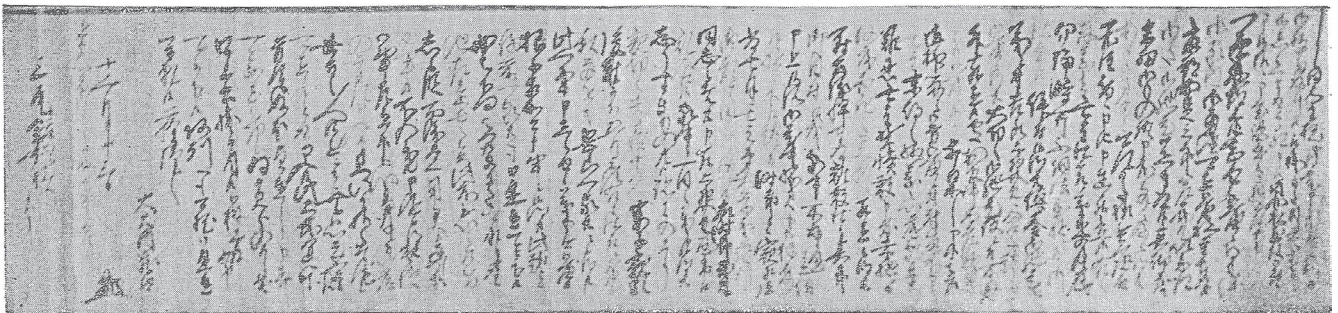
手紙の内容は赤穂事件に関する史料をまとめた「赤穂義士史料下巻」(1931年)などに記載がある。昭和 25～32 年、東京や大阪、福岡などで開かれた展覧会では手紙が公開された。

その後は所在不明となっていたが昨年、東京都内に住む三尾豁悟の子孫が徳島城博物館に寄託を申し出たことで現存が判明し、職員が調査していた。

(中略)

新たな手紙が見つかったことについて、根津寿夫館長は「内蔵助がいかに三尾豁悟を信頼していたか、さらには多くの人物が内蔵助を裏側で支えていたかが分かる。三尾の存在によって赤穂事件の見方も変わるのではないかと話している。

(後略)



大石内蔵助が三尾宛に 12 月 13 日に出した暇乞状 (当会会報より)

上記で説明している通り、この書状は既に当会元会長渡辺世祐博士が、昭和 6 年、「赤穂義士史料」(下巻)に発表されている書状である。この世界の専門研究者なら、誰でも知っている書状である。ただ、現在まで、元禄事件に直接関与している書状ではなかったのがあまり流布ちされて来なかった。しかし、内蔵助の内面を知る上では、貴重な史料である。書状の相手は、元徳島蜂須賀家家老「池田官兵衛正長」その人である。元禄 15 年当時は隠居していて、名前を三尾豁悟と変えていた。注目すべきは、内蔵助が親戚の池田左兵衛と池田十郎兵衛からの借財を、事情をのみこんだ三尾が肩代わりしてやっていることである。内蔵助が 9 月に主税を連れて最後の別れに出向いた時は、江戸での討ち入りの件は語らず、お互い暗黙の内に別れたのである。が、いよいよ討ち入り日が決まった前日に、討ち入りを打ち明けた書状がこれである。もっとも、我が会では、時々教材として披露している史料である。

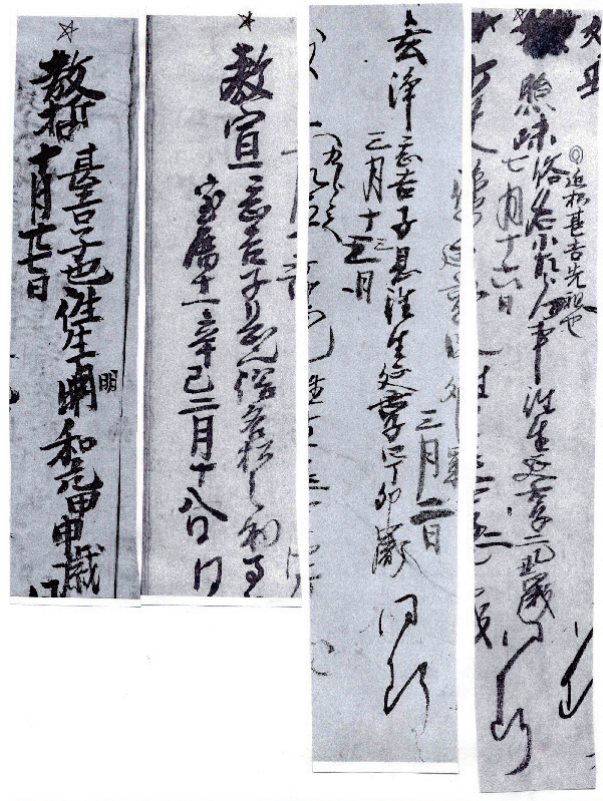
中島康夫

甚三郎の過去帳



甚三郎戒名

一年遅れの発刊「年譜忠臣蔵」の校正中の事。史実の元禄事件では、重要な役割を果たしている甚三郎についても、なるべく多く掲載しようと考えた。その為、手数ではあったが、御子孫の近松貞晴様に甚三郎の没年を調べてもらうように依頼した。結果、判明したのが菩提寺の過去帳である。甚三郎の父親が庄



甚三郎過去帳

屋の小左衛門で、その長子が甚三郎（十九才）であることは、既に判明していたので、過去帳から判断して「延享四年三月十三日に亡くなった「玄浄」が甚三郎であることがわかる。次男が「教宣」三男が「教哲」と思われる。ともあれ甚三郎の没年が「年譜」に刻まれたことはなによりである。

その時、その義士たちはどこにいたのか (その三)

理事 三輪三郎

三 義士達の江戸集結完了

内蔵助は元禄十五年十月二十六日鎌倉から、川崎平間村の富森助右衛門の持家へ移った。

そこで三日程、旅の疲れを癒やし、さらに「訓令十ヶ条」を浄書して、十月三十日には自ら江戸入りして、同志を叱咤して回って歩いていった。そして、十一月五日、先行していた長男主税のいる日本橋の小山屋へ移って行った。

この内蔵助の江戸入りにより義士全員の江戸集結が完了した。

四十七義士の江戸の隠家(かくれが)は次のとおり十四ヶ所である。(その記述中義士の氏名の次の( )は彼らの江戸における変名で、さらにその横の( )はこの隠家に入るまでの彼らの寓居である。)

麴町に四軒、吉良邸のある本所に三軒そのほか築地、芝方面にそれぞれ借宅していた。

義士 四十七名の隠家

(1) 鐘つき堂新道、石町三丁目南側小山屋弥兵衛方裏店

借宅主 大石主税(垣見左内)

(尾崎村おせど↓山科西野山↓京金蓮寺梅林庵↓新麴町

六丁目大屋喜右衛門裏店)

同居人 大石内蔵助(垣見五郎兵衛)

(尾崎村おせど↓山科西野山↓京金蓮院梅林庵↓鎌倉↓

川崎平間村)

同 潮田又之丞(原田斧右衛門)

(京四条道場)

小野寺十内(仙北又四郎又は十庵)

(京仏光寺東洞院西入ル↓中村勘助借宅)

近松勘六(森清助)

(近江国野洲比留田↓山科西野山↓芝三田松本町↓新麴

町)

大石瀬左衛門(小田権六)

(京河原町二条上ル↓新麴町六丁目 吉田借宅)

早水藤左衛門(曾我金助)

(京都)

菅谷半之丞(町人政右衛門)

(備後三次↓江戸谷中長福寺)

三村次郎左衛門(喜兵衛)

(京四条道場)

(2) 新麴町六丁目大屋喜右衛門裏店

借宅主 吉田忠左衛門(田口一真)

(京烏丸通室町二条上ル↓三田松本町)

吉田沢右衛門(田口左平太)

(加東郡三木町)

原惣右衛門(和田元真)

(大阪天満十一丁目老松町)

不破数右衛門(不破八左衛門)

(大坂天満十一丁目老松町)

寺坂吉右衛門(古沢吉右衛門)

(京烏丸通室町二条上ル↓三田松本町)

(3) 新麴町四丁目和泉屋五郎兵衛店

借宅主 中村勘助(山彦嘉兵衛)

- (6) 芝源助町  
借家主 儀貝十郎左衛門(内藤十郎左衛門)  
同居人 茅野和助(富田藤五)  
(京都)  
同 村松三太夫  
(鉄砲洲町屋)
- (5) 新麴町五丁目秋田屋権左衛門店  
借家主 富森助右衛門(山本長左衛門)  
(川崎平間村)
- (4) 新麴町四丁目裏町大屋七郎右衛門店  
借家主 千場三郎兵衛(原三助)  
(大坂↓京都)  
同居人 間喜兵衛(杣庄喜齋)  
(大坂)  
同 間十次郎(杣庄伴七)  
同 間新六(杣庄新六)
- (3) 同 間新六(杣庄新六)
- (2) 同 間新六(杣庄新六)
- (1) 同 間新六(杣庄新六)
- (7) 芝通浜松町桧物屋惣兵衛店  
借家主 赤埴源蔵(高島源之右衛門)  
(芝通町三丁目)  
同居人 矢田五郎右衛門(塙武助)  
(芝浜松町三丁目)
- (8) 築地小田原町二丁目大屋四郎兵衛店  
借家主 村松喜兵衛(村松隆圓)  
(鉄砲洲(町屋)↓南八丁堀)
- (9) 南八丁堀湊町平野屋十右衛門店  
借家主 片岡源五右衛門(吉岡勝兵衛)  
(伏見両替町筋銀座二丁目)  
同居人 大高源五(脇屋新兵衛)  
(大津↓京都小川頭新本通)  
同 貝賀弥左衛門(町人喜八郎)  
(京都高倉通丸太町下ル)  
同 矢頭右衛門七(清水右衛門七)  
(京都↓大坂新地堂島)
- (10) 深川黒江町春米清右衛門店  
借家主 奥田貞右衛門(西村丹下)  
(江戸深川八幡町)  
同居人 奥田孫太夫(西村清右衛門)  
(江戸深川八幡町)
- (11) 本所一ツ目相生町二丁目山田屋清右衛門店  
店借主 前原伊助(米屋五兵衛)  
(江戸下谷↓日本橋富沢町)  
同居人 神崎与五郎(小豆屋善兵衛)  
(播州那波↓京都↓江戸下谷↓江戸麻布谷町)

(12) 本所林町五丁目紀伊国屋店

借宅主 堀部安兵衛（長江長左衛門）

（両国矢ノ倉米沢町）

同居人 倉橋伝助（倉橋十左衛門）

（江戸本所二ツ目↓相生町二丁目）

同 横川勘平（三島小一郎）

（京都寺町通）

同 木村岡右衛門（石田左膳）

（加東郡↓大坂天満六丁目）

(13) 本所徳右衛門一丁目大屋長十郎店

借宅主 杉野十平次（杉野九一右衛門）

（江戸本所三ツ目横町紀伊国屋店）

同居人 武林唯七（渡辺七郎右衛門）

（尾崎村清水）

同 勝田新左衛門（町人喜右衛門）

(14) 両国矢ノ倉米沢町大屋米村一兵衛店

借宅主 堀部弥兵衛（馬淵市郎右衛門）

(15) 日本橋本町一丁目七文字屋惣右衛門方

医師 寺井玄達 助手森助

義士達にとってこれらはすべて隠家であり、一般の人が目立たないようにするため多くの人数で、一か所に入らないよう気を付けていたようである。それでも内蔵助の江戸入り後、作戦本部となった主税の借宅、小山屋には九名、これまで実質上の本部であった吉田忠左衛門の借宅（麴町には五名が入居していた）。

特筆すべきは前原伊助の隠家である。

前原は松之廊下刃傷事件のときは定府で江戸詰めだった。その後赤穂へ

は行かず、日本橋富沢町に住み、独りで古着屋を始めた。

元禄十四年八月、吉良が呉服橋から本所へ屋敷替えになった際には自ら日雇人夫となって吉良邸に入り、屋敷内の模様を見届けている。

その後、吉良邸の南西角、相生町二丁目に借宅し、店を出すことに成功した。

さらにその後、神崎与五郎が同居することになった。彼も大石の指示によって東下し、麻布谷町で扇子、団扇などの行商をやりながら上杉家中屋敷の動静を探っていた。

商才に長けた二人、米屋五兵衛と小豆屋善兵衛である。商売も繁昌したという。

商売もさることながら、この隠家こそ、吉良邸とは道路一本を隔てただけの目と鼻の先、吉良邸探索の最前線基地として絶好、討入り成功に大いに貢献した。

元禄赤穂事件のクライマックス「赤穂義士による吉良邸討入り」、その舞台となった吉良邸のあった本所（隅田川の東側）はこの時点では江戸ではなかった。下総の国から江戸市中に加えられたのはそれから十七年も経った享保四年（1719）のことであった。

#### 参考文献

- ① 新大石内蔵助の生涯 中島康夫
- ② 赤穂義士実纂 斎藤茂
- ③ 正史 赤穂義士 渡辺世祐
- ④ 独学・忠臣蔵 山田泰三
- ⑤ 元禄快挙真相録 福本日南
- ⑥ 忠臣蔵四十七義士全名鑑（財）中央義士会

# 第 15 回 忠臣蔵通 2 級 検定 試験 問題

## [ 申込方法 ]

### ・ 解答用紙の請求

検定試験の受験をご希望の方は、住所、氏名、電話番号、FAX 番号並びに、第 14 回 2 級検定試験申込と記入した用紙を、下記宛て FAX または郵送でお送り下さい。FAX をお持ちの方は、できるだけ FAX でお願い致します。また、メールでも受け付けております。折り返し解答用紙をお送り致します。

宛先 〒135-0047 東京都江東区富岡 1-17-1-403

NPO 法人 忠臣蔵倶楽部

TEL / FAX 03-3630-1927

メール office@chuushingura.jp

### ・ 受験料と振込先

2 級の受験料は 2000 円です。振り込みで受験申込となります。

郵便局の青色の払込取扱票で下記へお振り込みください。

**NPO 法人 忠臣蔵倶楽部 00190-0-346038**

払込取扱票の通信欄に「第 15 回 2 級試験申し込み」と記入下さい。

複数名を 1 枚の払込取扱票で申し込まれる場合は、受験者全員のお名前を通信欄に記入下さい。

払込料金をご負担をお願いしております。

## [ 解答の送付 ]

- ・ 解答は FAX で下記へお送りください。郵送の場合は、下記の中央義士会事務局へお送りください。メールでは受け付けておりませんのでご注意ください。

FAX 048-973-3790

宛先 〒343-0032 埼玉県越谷市袋山 58-12

中央義士会事務局

- ・ 合否は 11 月になってからお知らせ致します。

## [ 注意事項 ]

- ・ 合格点は 80 点です。24 問以上正解で合格となります。
- ・ ご自宅で資料を調べて解答していただいて結構です。
- ・ 試験問題を調べるために、お電話等で各施設へ直接問い合わせることはおやめ下さい。
- ・ 同じく、会員、受験者同士でも試験のための連絡はおやめ下さい。特に申し上げるのは、連絡しあっている方は、同じ答えで間違っているのですぐにわかります。
- ・ 問題をよく読んで、一言一言理解した上で、解答して下さい。問題を読み間違えないようお願い致します。ひっかけ問題も出題されています。
- ・ 記入問題については、解答用紙以外に別紙を添付していただいても結構です。
- ・ 受験料は締め切りの 1 ヶ月前までにお納め下さい。
- ・ 最終提出日は、平成 31 年 10 月末日です。



平成30年12月

第1問	大石内蔵助の12月19日付落合与左衛門宛の書状は、どこで生まれたのでしょうか。
第2問	吉良家の家紋と泉岳寺の家紋は、なぜ同じなのでしょうか。
第3問	瑤泉院が三次家に里帰りしてからの日々のまかない費は、どのようにやりくりしていたのでしょうか。
第4問	討入りの翌朝、近松勘六の家僕甚三郎が瑤泉院の所へ、討入り成功を知らせた事をはっきり示している史料を2つ挙げて下さい。
第5問	3月14日の松之廊下事件が起きてから討入りまでの間に、伊勢参りをした義士は何名いたのでしょうか。
第6問	討入り前、江戸に潜伏していた浪士が一人でも幕府に捕らえられたら、大石内蔵助はどうしようと思っていたのでしょうか。
第7問	赤穂浅野家の家中に、大石内蔵助の妻理玖の親戚の方がおりますが、どなたでしょうか。
第8問	大工軽部五兵衛の御子孫は現在何のお仕事をされているのでしょうか。
第9問	大石内蔵助が宿泊したとされる、軽部五兵衛のしもた屋の跡は、現在どうなっているのでしょうか。
第10問	「武士の矢並つくろふ小手のうへにあられたばしる那須のしの原」 この歌はどなたの歌でしょうか。
第11問	その昔、土屋本家の家臣であった方は、下記の氏名の内、どの方でしょうか。 ① 五井蘭州      ② 荻生徂徠      ③ 太宰春台      ④ 新井白石

第 12 問	赤穂義士と坂本龍馬を結びつけて下さい。
第 13 問	「保山」とはどなたの号でしょうか。
第 14 問	笠間の大石内蔵助像のモデルはどなたでしょうか。 ① 県知事    ② 市長    ③ 区長    ④ 一般の人
第 15 問	大佛次郎は猫好きなので小説「赤穂浪士」の中で猫を登場させました。どのように登場させたでしょうか。
第 16 問	みそ汁の献立表が台所に張ってあった家は、どなたの家でしょうか。
第 17 問	ゴジラと忠臣蔵ドラマとを結びつけて下さい。
第 18 問	大石内蔵助の銅像は、全国に沢山ありますが、一番大きいのはどこの銅像でしょうか。
第 19 問	226 事件と忠臣蔵ドラマを結びつけて下さい。
第 20 問	片岡源五右衛門の家僕（元助）が一級史料に最も早く出てくる史料名を挙げて下さい。
第 21 問	「山・川」の合い言葉が認められる史料を一つ挙げて下さい。
第 22 問	その昔、そもそも瑞光院は、どなたの住まいであったといわれていたでしょうか。

第 23 問	大高源五が「あの方と旅をするのはごめんこうむりたい」と、大変嫌っていた方がおりました。嫌われた方はどなたでしょうか。
第 24 問	少なくとも、浅野内匠頭は、人事の掌握には情愛のこもった配分をしておりました。どのようなところでしょうか。
第 25 問	江戸城内の刃傷事件を知った江戸城外で待機の浅野家家臣は、大手門から城中へ進入していきましたが、どこまで入っていったのでしょうか。
第 26 問	細川家の「白金屋敷」は下屋敷にもかかわらず、なぜ豪華に広く建築していたのでしょうか。
第 27 問	細川綱利が台所にまで入り込んで、義士達の献立に口を出していた事は、何の史料に記してあるのでしょうか。
第 28 問	元禄14年3月14日、勅使・院使が江戸城に到着して、第一回目に休息した部屋は、何の間という部屋でしょうか。
第 29 問	大石内蔵助の師でない方はどなたでしょうか。 ① 奥村無我    ② 菅谷半之丞    ③ 伊藤仁斎    ④ 山鹿素行
第 30 問	梶川與惣兵衛は、松之廊下事件で500石増加になりましたが、その領地の中に、何を求めたのでしょうか。

- なるべく期限ギリギリまで努力してご提出下さい。
- 答えが不明の問題もございます。その場合、不明もしくは不知と書いて下さい。
- 文章で答える問題はなるべく短く簡潔にお答え下さい。解答にならない分かりきっていることは書かないのがコツです。
- 採点が△印の場合もありますが、その場合は△が2つで1問正解とします。
- 中央義士会の過去の出版物でも誤記はありますので充分確認の上、解答して下さい。

## 平成30年1月以降出版された「忠臣蔵」関係新刊本

書名	編著者	発行所	価格
孤独な祝祭 佐々木忠次 ーパレエとオペラで世界と闘った日本人	追分日出子著	文藝春秋	1,944円
読めれば楽しい！ 古文書入門	小林正博編	潮出版社(潮新書)	950円
歌舞伎の解剖図鑑	辻 和子絵・文	エクスナレッジ	1,728円
浮世絵細見	浅野秀剛著	講談社(講談社選書メチエ)	1,998円
文字に美はありや。	伊集院 静著	文藝春秋	1,728円
身代わり忠臣蔵	土橋章宏著	幻冬舎	1,620円
陰謀の日本中世史	呉座勇一	角川新書	880円
最新研究でここまでわかった 日本史通説のウソ	日本史の謎検証委員会編	彩図社	950円
江戸の絵すごろく	山本博文監修	双葉社	1,750円
赤穂史百話	赤穂市史編さん室編	赤穂市	700円
Discover Japan Culture 江戸から明治維新に学ぶ武士道	Discover Japan編集部編	榎出版社(エイムック)	1,620円
立命館大学アート・リサーチセンター紀要 アート・リサーチ Vol.18	赤間 亮ほか編	立命館大学アート・リサーチセンター	非売品
ざんねんな日本史	島崎 晋著	小学館(小学館新書)	842円
画帖 月百姿	月岡芳年画/井上岳則編	双葉社	2,052円
本懐	上田秀人著	光文社	1,728円
流れをつかむ日本史	山本博文著	KADOKAWA(角川新書)	950円
サライの江戸 江戸三百藩大名列伝	知楽・ディラナダチ編	小学館(サライムック)	1,836円
墓が語る江戸の真実	岡崎守恭著	新潮社(新潮新書)	799円
年譜忠臣蔵	中央義士会	中央義士会	1,500円

・市販されていない著書もございます。

・一部、再版の冊子も載せております。

・その他、ほんの一部だけ元禄事件を扱っている出版物で除外している著書もございます。

・この一年間で、この他に出版された忠臣蔵物、あるいは元禄事件関係の書物をご存じの方は、ご教授下さい。・本頁に関して、赤穂市教育委員会生涯学習科小野真一氏の協力を得ました。

### 全国義士会連合会

1. 赤穂義士会	〒678-0233 兵庫県赤穂市加里屋中州3-56 赤穂市史編纂室内	電話 0791-43-6848
2. 赤穂義士顕彰会	〒678-0235 兵庫県赤穂市上飯屋129 大石神社内	電話 0791-42-2054
3. 京都山科義士会	〒607-8308 京都府京都市山科区西野山桜ノ馬場町116 大石神社内	電話 075-581-5645
4. 京都義士会	〒606-8352 京都府京都市左京区仁王門通東大路東入ル 北門前町 本妙寺内	電話 075-771-2244
5. 大阪義士会	〒543-0074 大阪市天王寺区六万体町1-20 吉祥寺内	電話 06-6771-4451
6. 北海道義士会	〒073-0106 北海道砂川市空知太444の1 北泉岳寺内	電話 0125-53-3513
7. 笠間義士会	〒309-1611 茨城県笠間市笠間323 真浄寺内	電話 0296-72-0090
8. NPO法人 忠臣蔵倶楽部	〒135-0047 東京都江東区富岡1-17-1-403	電話 03-3630-1927
9. 中央義士会	〒104-0052 東京都中央区月島3-15-9	電話 048-973-3777